

ICT活用と児童生徒の非認知・認知スキルとの 関係に関する研究

内海 友子

経済社会総合研究所 客員研究員

創価大学 国際教養学部

2026年3月25日

分析の概要

テーマ

「学校におけるICTの利用が非認知・認知スキルに与える影響は、学校環境（学校特性）により違いがあるか？」

着目した 異質性

- **学校特性** ※前回は生徒特性（性別・SES）に着目
 - 教員研修の取組
 - 教員間の関係性（協力的な雰囲気か）
 - 学校規律の順守

データ

- 埼玉県学力・学習状況調査：2019～2023年度
- 学校における教育の情報化の実態等に関する調査：2018～2022年度
- 対象：小6～中3

学校特性

教員の研修

- 教員研修が多い学校では、数学の授業でのICT利用は自己効力感を高める傾向

教員間の協力

- 教員間の協力の程度が低い学校では、デジタル教科書の利用は自己効力感を高める傾向

学校規律

- 学校規律に課題のある学校では、ICTの環境整備が充実すると学力が高まる傾向

結果

- ICTの利用と生徒の非認知スキルや認知スキル（学力）との関係は、教員研修の取組・教員間の協力・学校規律などの学校特性により、違いが見られた
- ICTの利用は、状況によって教員の補完的役割を果たし、教育の質を上げ得る可能性

政策的含意

- ICTの利用にあたっては、効果の異質性が考慮されることが重要
- ICTは教員の補完的役割を果たし、教育の質を上げ得る可能性

本研究の調査の限界

- 教師の指導内容については見ていない
 - ICT利用の効果は、教師が教室でどのように利用するかにもよる (Comi et al., 2017; OECD, 2020)